



釣りは人生の源

浅野 俊彦



「冬過ぎて 春来るらし 朝日さす 春日の山に 霞たなびく」

この歌は、日本最古の和歌集である万葉集に収録されている短歌です。

この歌から、作者が感じた季節「春」を読み取れるように、日本には昔々から、四季ごとの祭事や行事を行ないながら季節を感じ季節を楽しむという文化があります。また、移り行く季節に合わせての仕事や遊び（レジャー）があり、過去から現代…未来へと繋がる生活文化の礎となっています。

私の職種は、主に官庁発注工事の施工管理者・現場監督です。主に土木工事／道路・下水道工事に携わっています。

1年間のタイムスケジュールをみれば、春～夏に工事受注、夏～秋に準備・着工、秋～冬に施工・完成というスケジュールを過ごすことが大半であり、仕事での季節と時の流れを感じることは、工事の進捗を知ることにもなります。

現場監督の業務は、「社会に必要なものを作る」・「完成への達成感」と、仕事の魅力とやりがいが多い職種であります。

しかし、その反面…プレッシャーやストレスを抱えがちになりやすい業務でもある為、時に集中力や生産性、時に安全性をも低下させる場合もあると考えます。その為、定期的にストレス軽減・解消、リラックスを

することにより、業務の効率を向上させたり、業務上での冷静な判断を養うことにも繋がるほか、職場全体の雰囲気づくりやストレス管理においても重要な効果があります。

そんな私のストレス解消方法は「釣り」です。

私の釣り時間、釣りの季節・シーズンは365日一年中無休。

釣りがしたいから仕事をする…仕事をすれば釣りに行ける…と、少々あきれた考えにも思えますが、この思想でサラリーマン生活を30年近く過ごしてますから、いわばライフワーク、人生の源ともいえる趣味になっているのです。

釣りのことだけは年中暇なく脳裏から消えることはありません。

あの釣りも…この釣りもっ！と、ネットやSNS情報を見入りながらあれこれ妄想をふくらませるのも「釣り」の楽しさです。特に一般的に釣りの人気ターゲットとなる魚種の情報はリアルタイムかつアクティブに配信されていることが多く、私が好む淡水のワカサギ釣りや海水のハゼ、アジ、クロダイ（チヌ）釣り等の人気を博している魚種の情報は多く、釣行までのストーリーを楽しむことができます。

また、人気のある釣りの共通点としては、「安全で手軽に楽しめる」・「食べて美味しい」というターゲット（釣る魚）の人气が高く、安全な場所で手軽に楽しめて、最後は美味しく食べられることも魅力の一つと



写真一 地元宮城県海



写真二 地元宮城県海で大マダイ釣る

なります。

手軽に楽しめることの中には、短時間で、ふらっと立ち寄れる程度の気軽さと、短時間勝負でも十分に「釣り」を楽しむことができるスタイルです。手軽に楽しめる理由の中には、釣具がコンパクトにまとまることや、普段着のままでも釣りが楽しめる等々、楽しむ時は、普段、釣りをしない家族や友人、職場の仲間たちとのコミュニケーション時間としても最高です。

「海はチヌ釣り」

北は北海道・道南から南は沖縄まで日本全国に生存分布するチヌ（クロダイ）。

私が住む東北地方では、八十八夜も過ぎる頃から最盛期をむかえ、本格的な冬をむかえる初冬頃までが釣りシーズンとなります。

チヌは、古の時から食料として愛され、その後に、

漁の一環にある「釣り」から、レジャーというジャンルの「釣り」に分類され今に愛され続けている魚です。

そんな今も愛されるチヌ釣りの魅力と言えば、「釣り方（フカセ・落とし込み・ダンゴ等）が沢山ある」、「引きの強さ」、「食べて美味しい」にくわえて、やはり1番は、意外にも身近な場所で釣れるということです。

全国津々浦々、1時間も歩いて行く釣場もあれば、ものの数分で到着する釣場もあります。その全てが同じ魚、チヌであるのだから、その魅力の奥深さは壮大であり、日々、終わりになき探求心だけが膨らむばかりです。

「淡水はワカサギ」

ワカサギ釣りと言えば、一般的に氷上のワカサギ釣り（氷の穴釣り）を脳裏に思い浮かべる方も少なくはないでしょうか？北は北海道から、東北地方、北関東地方、甲信越地方の「冬の風物詩」として、昔々から愛されている釣りです。

氷上のワカサギ釣りとは、釣りだけを楽しむのでは



写真—3 秋田県男鹿半島のチヌ



写真—4 新潟県笹川流れのチヌ



写真—5 松原湖水上のワカサギ釣り



写真—6 福島県松原湖の氷上ワカサギ釣り

なく、観光地の風景として親しまれていたり、家族や友人、職場仲間とのレクリエーションの場としても親しまれてきたご当地ならではの釣りでもあります。

また、ワカサギは、寒の時期に味わえる旨味たっぷりの美味しい魚であり、天ぷら、唐揚げ、素焼き、佃煮、アヒージョ等々、食卓を彩る主役の食材でもあります。

私のワカサギ釣りの原点は氷上釣りから始まりました。

始めた当時は、魚群探知機（以降、魚探）も持たずに氷の穴あけと仕掛け投入を繰り返し、数少ないアタリに大感激をおぼえた記憶が今でも鮮明に思い出されます。

そして時は経ち、ワカサギが釣れる喜びと楽しさや、釣れない時のジレンマを年輪のように重ね合わせながら、氷上にあけた穴直径 15 cm から覗く未知の世界へと、今もなお、夢中に歩み続けています。

「釣人は旅人」

年間釣行日数は約 100 日。

10 分たらずで行ける釣場から、飛行機を乗り継ぎ、



写真—7 福島県松原湖氷上はスノーモービルで移動する。非現実的空間は最高です



写真—8 仲間との楽しい釣り時間

半日もかけて行く釣場までと、年間釣行日数は約 100 日にもなります。その内の約 40 日は県外への釣行…「旅」となります。

旅を通じての楽しみは、現地の方々の交流を主に、食文化の違いや美味い物探しが定番となりますが、職業から構造物や建造物を見ることも楽しみの一つです。

最近では、香川県坂出市櫃石島から頭上に見た「下津井瀬戸大橋」のスケールの大きさとインパクトの強さには驚きました。釣り人だから見られる位置・角度は、改めて日本の土木・建築技術の高さを再確認させられる景色であり、技術者としての誇りと宝を感じる一瞬でした。

「釣りは人生の源」。私の人生…Dream as if you'll live forever.Live as if you'll die today:「永遠の命があるつもりで夢を抱き、今日限りの命と思いながら生きろ」と、終わりになき探求心と終わりになき旅がまだまだ続きます。



写真—9 下津井瀬戸大橋



写真—10 岡山県下津井の釣り